

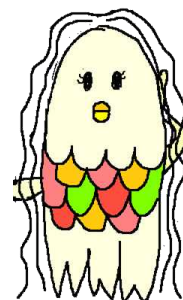
山形県保健師長会ニュースレター

令和2年8月3日 第19号 発行：山形県保健師長会

コロナ禍の中の災害、本県におきましても甚大な被害が発生しました。まずは自身の健康を第一に、山形県内保健師の連携の強さを基に、みんなでこの難局を乗り越えましょう！

一日も早い復興とコロナ禍の終息を祈って、アマビエちゃんに登場いただきました。

先日開催した総会・研修会後のアンケートに「10年先の後輩のために、今ここで私たちが取り組まなければいけないことの意識づけとなりました。」との声が寄せられました。総会での前小松会長の挨拶とともに肝に銘じ、新役員体制でこの1年間頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。（記：会長 伊藤京子）



〔アマビエ〕

前小松会長の挨拶から

山形県保健師長会は平成5年の8月に発足し、今年で27年目となりました。

この会の目的は、全国保健師長会との連携のもと、「保健師業務の進歩・発展と会員相互の連携・親睦を図り、もって県民の健康づくりに寄与し、本県の公衆衛生の向上に資すること」とされています。

さて、本県の状況をみますと、他県同様に少子高齢化や人口減少が急速に進展し、住民の安心・安全な生活と健康を守るための舵取りが求められています。

私たちは、山形の行政保健師として、あらゆる年代や様々な健康状態であっても安心して健やかに暮らせる地域をめざし、多様な関係機関との連携を大切にしながら、地域に責任をもち、予防的視点から「みる」「つなぐ」「動かす」を基本に、地域に根差した保健活動を日々行っていますが、業務に関する情報収集や研修、保健行政の向上に関する事など、この会が果たす役割は大きいものと思っています。そのため、ますますこの会の充実をめざしていく必要があると考えています。

そして、公衆衛生看護活動の使命を会員の皆様と確認・共有し、次世代の保健師の成長を支援しながら、保健師活動を引き継いでいきたいと思っております。

令和2年度山形県保健師長会総会並びに研修会の開催状況について

7月4日(土)の午後、山形県生涯学習センター遊学館 第1・2研修室を会場に「令和2年度山形県保健師長会総会並びに研修会」を開催しました。当日は、昨年の約2倍もの多くの会員のご出席をいただきました。このため初のZoom利用による2会場に分かれての開催となり、参加された方にはご不便をおかけしてしまいました。開催が危ぶまれた中でしたが、無事終了することができ、みなさんのご協力に感謝申し上げます。総会では提案された議案について全て承認されましたことを報告いたします。

【総会】 13:00～13:50 ❖ 出席 57名、委任状 120名

(1)協議事項

- ① 令和元年度事業報告・収支決算について → 承認
- ② 令和2年度事業計画(案)・予算(案)について → 承認
- ③ 役員改選(案)について → 承認

(2)令和元年度の研修会等への参加者報告

- ① 東北ブロック研修会に参加して
- ② 令和元年度全国保健師長研修会に参加して ほか



全国保健師長会シンボルマーク

今年度、全国保健師長会へ新たに19名の方がご加入いただきました。ぜひ、全国の保健師リーダーと一緒に活動してまいりましょう。

今年度の全国保健師長会研修会(大分県)、東北ブロック研修会(秋田県)は、書面開催や検討中と聞いておりますが、開催される場合に参加をご希望される方は お近くの役員までお申し出ください。

〔研修会〕 14:00～15:30 ❖ 出席 64 名

- ❁ 講演「新型コロナウイルス対策について～第2波に備えるために～」
講師 山形県保健所長会 会長 山田 敬子 氏
- ❁ 情報提供「新型コロナウイルス感染症発生時の対応について」
報告者 最上保健所地域保健福祉課 地域保健主幹 小松 香 氏
上山市健康推進課 副主幹兼地域保健係長 北澤 真美 氏

令和2年度山形県保健師長会研修会に参加して

- ❁ 奇しくも東京では2日前に、第2波到来かと思われる新規感染者数の100人超え、更に当日は約2か月ぶりに70例目の感染者が地元で確認されたとの報告もされるというタイミングだったこともあり、参加者の皆さんは真剣な面持ちでした。

山田所長のお話は、メディアで出ている情報よりも専門的で、県内の状況が具体的に分かり、とても勉強になる内容でした。特に、重症化リスクの基礎疾患としていくつか挙げられていますが、県内の重症者は全員糖尿病であること、血糖コントロールの悪い人は入院が長引いていることを伺い、ウイズコロナの生活様式は感染予防だけでなく、重症化予防のための基礎疾患対策も必要だと思いました。

また、味覚・嗅覚異常がよく取り上げられますが、結膜炎や眼の充血、乾いた咳、血液凝固増進など、さまざまな症状がでる全身病であることも再確認できました。

情報提供では最上地域と上山市で感染者が複数発生したことにより、感染者や濃厚接触者対応に加え、地域住民の対応で業務量が災害時並みに増大し、とても大変な状況だったことが伝わってきました。

また、日頃から保健所と市町村の保健師が顔の見える関係があったことにより、さまざまな形での応援、連携がとれ、対応できた事も報告され、今後も連携を密にし、まだまだ終息しない感染症と災害時の避難所対策も重要視しながら(アマビエにも祈願しつつ…)日頃の業務を遂行しなければならぬと改めて感じました。

終了後のアンケートでも「学びの多い内容だった」という旨の感想が多くみられました。お忙しいところ、ご講演並びに情報提供をしていただき、本当にありがとうございました。(記:理事 佐藤幸代)

- ❁ 山田所長からは、コロナは全身病であること、まだまだ未知なるウィルスであること、保健所と市町村の役割の違いと連携、今後に向けての考え方等、興味深く拝聴しました。

また、実際に発生時の対応をされた最上保健所や上山市からは、手探りの中で苦慮しながらの対応に頭が下がる思いでした。時には「頑張る自分達を褒めたい」の言葉に共感です。

首都圏では最近、感染者が急増しており第2波が懸念されています。自分が住む場所で発生するのも時間の問題かもしれません。コロナに関する情報も日々更新され、刻一刻と状況も変化しています。保健師としての視点から課題を整理し、今後の対応に生かすことができるのか改めて考えさせられ、気が引き締まる研修会でした。
(記:会計監事 安達薫)